

第2回脱炭素市民会議 ワークショップ記録

日時：2022年9月28日（水）18:30～20:15

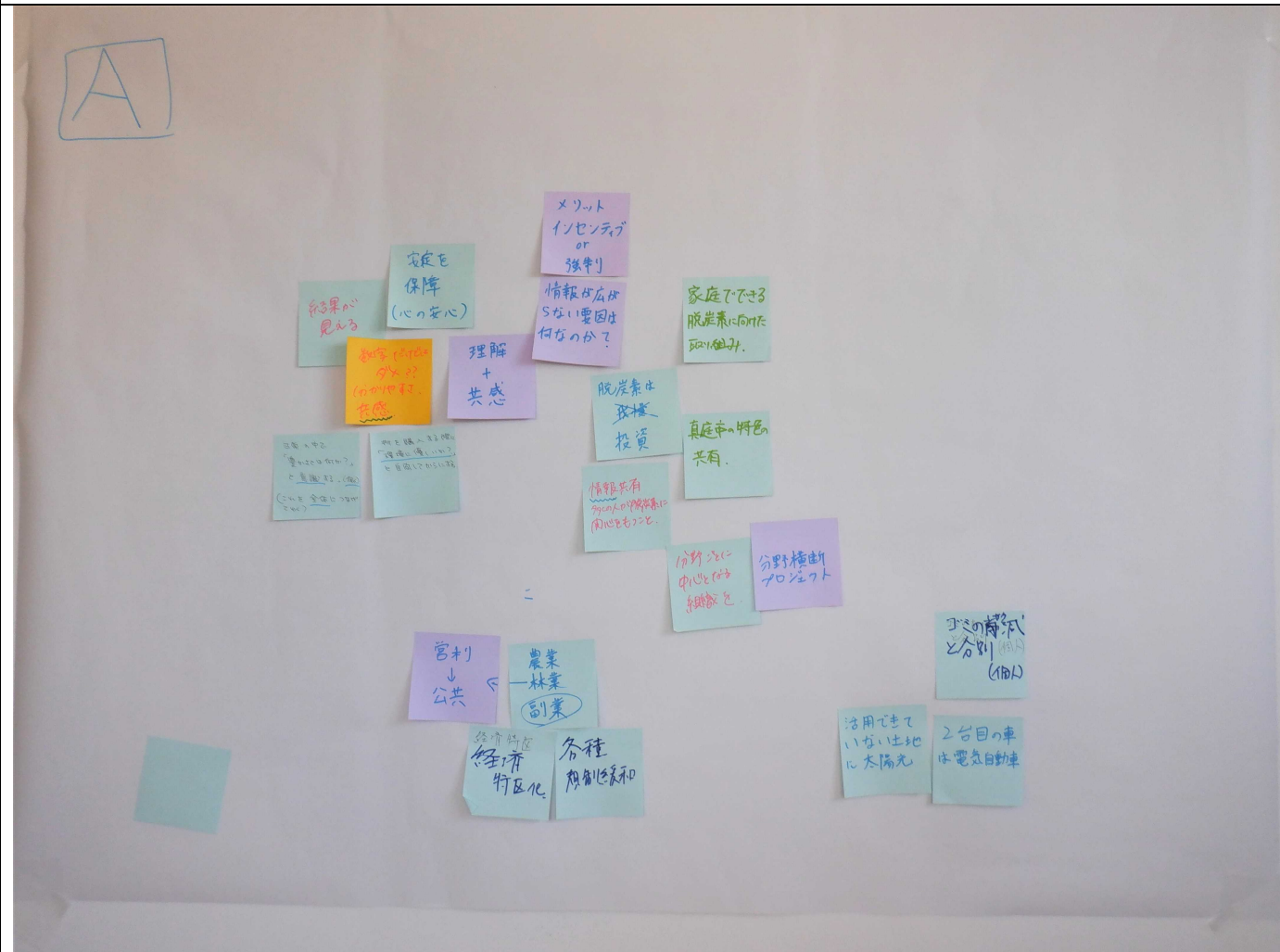
場所：真庭市役所本庁舎会議室

テーマ：脱炭素社会へのアクションを考える

■模造紙の内容：

黒字：紫の付箋（希望・懸念・質問全て） 緑：希望的なこと 黄：課題や懸念点 赤：質問

A グループ



- ・安定を保証（心の安心）
- ・結果が見える
- 数字だけではダメ?? 分かりやすさ、共感
- ・理解 + 共感
- ・日常の中で「豊かさとは何か？」と意識する。（個人）
（これを全体につなげてゆく）
- ・物を購入する際に「環境に優しいか？」と自問してからにする。
- ・メリット インセンティブ or 強制
- ・情報が広がらない要因は何なのか？
- ・家庭でできる脱炭素に向けた取り組み
- ・脱炭素は我慢×投資

- ・真庭市の特色の共有
- ・情報共有 多くの人が脱炭素に関心を持つこと
- ・分野ごとに中心となる組織を
- ・分野横断プロジェクト
- ・農業 林業 副業
- 営利→公共
- ・経済特区化
- ・各種規制緩和
- ・ゴミの削減と分別（個人）
- ・活用できていない土地に太陽光
- ・2台目の車は電気自動車

B グループ



- ・太陽光発電設備、蓄電池 EV カーを購入する
- ・バイオマス発電所をつくる
- ・電気料金 0 にできるか？
- ・→市の補助金はでるのか？
- ・→料金が高いので手が出しづらい
- ・数字を知る
- ・→カーボンニュートラルを実現できるとどこまで思っているのか
- ・バイオマス発電は儲かるのか？
- ・真庭バイオマス発電所の電力を再エネ電力として市民は購入できるのか？

- ・人口減
- ・→ (I ターンの人)の気持ち) 数年で都市部に帰っちゃう
- ・→ (20 代の気持ち) 真庭に戻りたいと思えるか…
- ・→ (高校生の気持ち) 地元に戻りたい (大学生の気持ち) 都市部は住みやすい
- ・→ (求職の気持ち) 働きたい業種が真庭に限られる…。
- ・→ (求職者) 大企業を誘致して欲しい
- ・→ (求職者) リモートワークができる環境を整備して欲しい
- ・身近な人たちと「こうありたい」を話し合ってみる
- ・子供が遊べる場を増やす。
- ・様々な世代の交流の場をつくる。
- ・若い世代に環境について考える機会をもうける

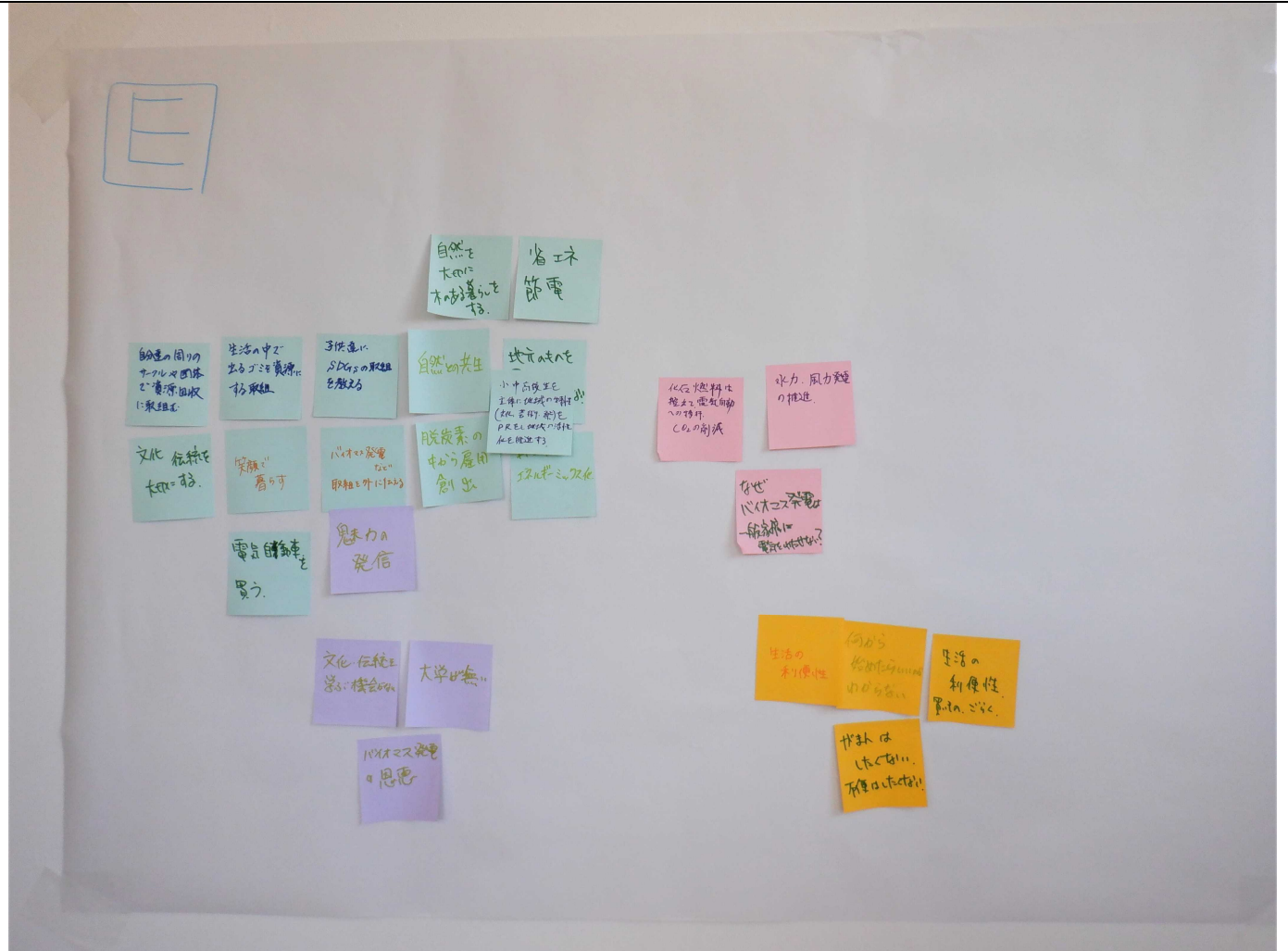
Cグループ



- ・電気に頼りすぎないくらしをする (節電)
- ・省エネ食品への切り換え
- ・部分的自給自足へのチャレンジ (家庭菜園、太陽光パネルとか)
- ・化石燃料からの切り換え
- ・具体的にアクションを考え行動する
- ・環境配慮の必要性を知る
- ・近所づきあい
- ・太陽熱による湯沸かし器の導入
- ・集落、地域でカーシェア・乗り合いバスの導入 (EV)
- ・エコドライブ
- ・学校で電気を作って売って備品を買う! ?
- ・地域で薪ボイラー 薪の循環 (中和をモデル)
- ・省エネ 節電
- ・脱炭素に関わる先進事例を知る
- ・コミュニティを大切に
- ・自家発電を研究する
- ・市内の広報やイベントのチェック
- ・環境配慮の生活の実現性を自分から示す
- ・1人1人ができることの周知
- ・苦勞を感じないシステム

- ・インセンティブ (利益) を感じながら参加できる
- ・地域発電 (小水力、バイオマス等)
- ・自然で豊かな暮らし
- ・真庭市のいいところを発信する
- ・外部から来た旅行者、移住者を大歓迎
- ・真庭での暮らしの発信 (SNS など)
- ・→外の人 (都市部の人) に届くか?
- ・人口減少 (流出) に対して移住者の増加で対応
- ・若者の流出しないシステム
- ・脱炭素関心少ない
- ・規模感
- ・どのくらい減らせばいいの? 数字で
- ・どうしたら地域発の電力会社作れる? うまくいく?
- ・人口減 過疎
- ・生活の制限
- ・どういうアクションの起こし方で始める進める?
- ・昔ながらの家に太陽光パネルがつくことをどう感じますか?
- ・太陽光以外で自家発電できる?

Eグループ



- ・自然を大切に 木のある暮らしをする
- ・省エネ 節電
- ・自分達の周りのサークルや団体で資源回収に取り組む
- ・生活の中で出るゴミを資源にする取組
- ・子供達に SDG s の取組を教える
- ・自然との共生
- ・地元のものを買う 海外から輸入しない
- ・文化・伝統を大切にする
- ・笑顔で暮らす
- ・バイオマス発電など取組を外に伝える
- ・→魅力の発信
- ・脱炭素の中から雇用創出
- ・再エネのエネルギーミックス化
- ・小中高校生を主体に地域の特性（文化、芸術、祭り）を PR をし地域の活性化を促進する
- ・電気自動車を買う

- ・文化・伝統を学ぶ機会がない
- ・大学が無い
- ・バイオマス発電の恩恵
- ・化石燃料は控えて、電気自動への移行 CO2 の削減
- ・水力、風力発電の推進
- ・なぜバイオマス発電は一般家庭に電気を渡せない？
- ・生活の利便性
- ・何から始めたらいいかわらない
- ・生活の利便性 買い物、娯楽
- ・がまんはしたくない、不便はしたくない

Fグループ



- ・再生しやすいかたちで個人が分別して出す
- ・節電 省エネ
- ・冬場マキストーブを使用する
- ・色々なメーカーの電気自動車を使ってみる

- ・再エネの推進・普及
- ・再エネを活用した課題解決サービスの創出

- ・昔ながらの仕事を大切にする

- ・若い世代に対しての脱炭素のアピール
- ・再生エネルギーの数値を皆で共有し、増やす喜びも共有
- ・Uターン Iターン 定住

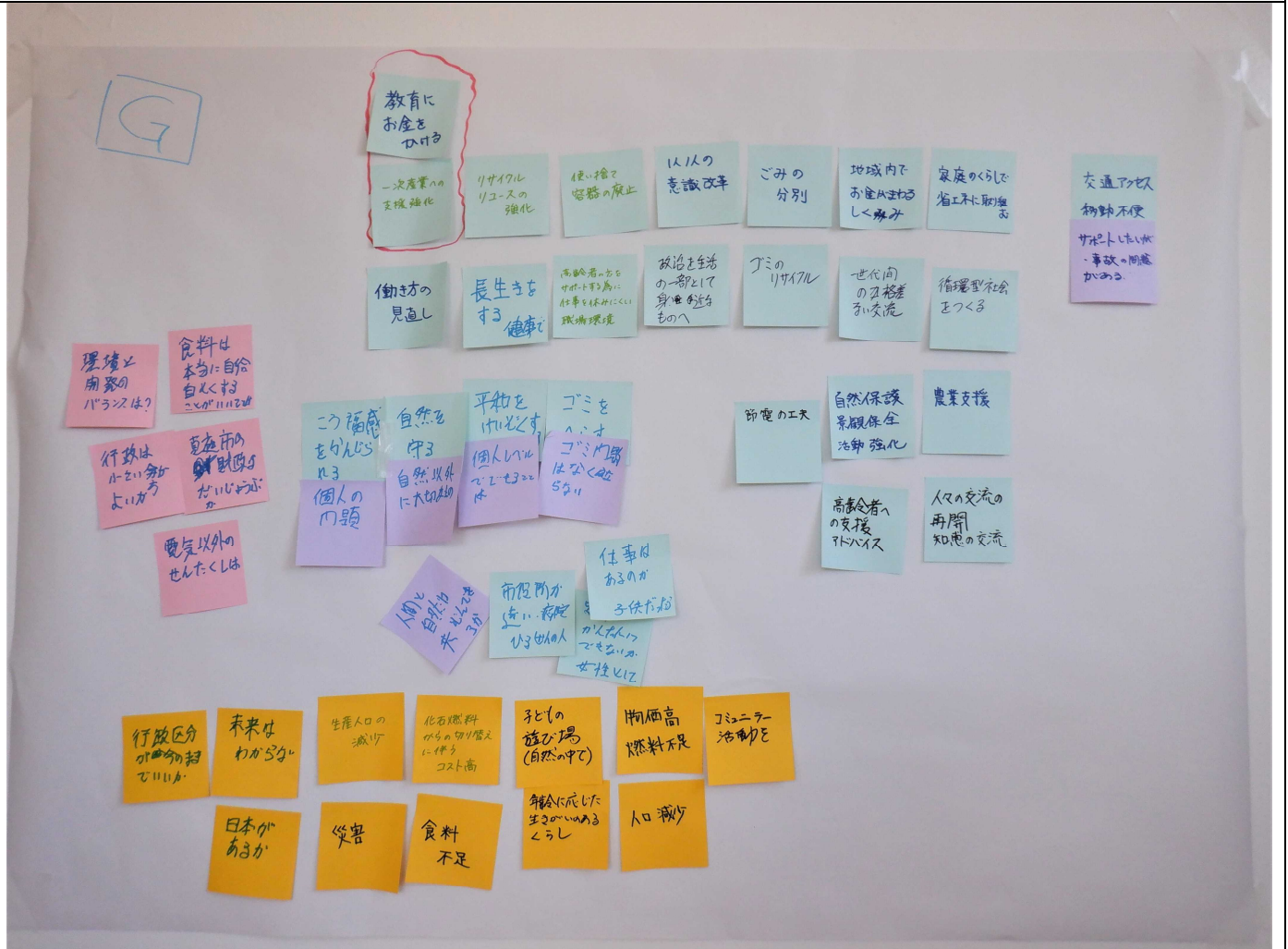
- ・運転出来なくなったら、移動手段が難しくなる
- ・公共交通機関が少ない
- ・電気代が値上る
- ・燃料代が値上る

- ・火事に気をつける
- ・気候変動 エアコンなしじゃ生きていけない…
- ・ゴミ問題
- ・脱炭素への認知度
- ・いち企業としての限界
- ・若い人が都会に出てしまっていて、高齢化してしまう
- ・3 K労働 林業従事者の世代交代

- ・身近で不便と感じる事は何か？
- ・バイオマス発電についてももっと知りたい マイクログリッド構想の共有
- ・実際興味を持たれているのか
- ・どのような取り組みをしているのか。

- ・バイオマス発電成功しているのですか？

Gグループ



- 教育にお金をかける
- リサイクルリユースの強化
- 1人1人の意識改革
- 地域内でお金がまわるしくみ
- 家庭の暮らしで省エネに取り組む
- 働き方の見直し
- 働き方の見直し
- 高齢者の方をサポートする為に仕事を休みにくい職場環境
- 政治を生活の一部として身近なものへ
- ゴミのリサイクル
- 循環型社会を作る
- 自然保護景観保全活動強化
- 高齢者への支援アドバイス
- 人々の交流の再開 知恵の交流
- 交通アクセス 移動不便
- サポートしたいが、事故の問題がある
- 幸福感を感じられる
- 自然を守る
- 平和を継続する
- ゴミをへらす
- 人間と自然は共存できるか
- 一次産業への支援強化
- 使い捨て容器の廃止
- ごみの分別
- 長生きをする 健康で
- 高齢者の方をサポートする為に仕事を休みにくい職場環境
- 政治を生活の一部として身近なものへ
- 世代間の格差ない交流
- 節電の工夫
- 農業支援
- 市役所が遠い、病院 ひるぜんの人
- 仕事はあるのか 子供だったら
- 家事はかんたんにできないか 女性として
- 環境と開発のバランスは？
- 食料は本当に自給自足することがいいことか
- 行政は小さいほうがよいか
- 真庭市の財政は大丈夫か
- 電気以外の選択肢は
- 行政区分が今のままでいいか
- 人口減少
- 化石燃料からの切り替えに伴うコスト高
- 子どもの遊び場 (自然の中で)
- 物価高 燃料不足
- 日本があるか
- 災害
- 食料不足
- 未来はわからない
- 生産人口の減少
- コミュニティ活動を
- 年齢に応じた生きがいのある暮らし